

いわみざわ

発行所
岩見沢ひので会

【月間目標】
冬季
安全管理

新年にあたり



岩見沢駐屯地司令
一等陸佐 高橋 英紀

駐屯地の諸君おめでとう。今年もお互いに切磋琢磨、より良い駐屯地、部隊を目指して頑張ってください。昨年を振り返って見ると駐屯地、部隊にとって極めて意義ある年であったと思う。

屯地の画期的環境改善が行なわれたこと。今年はこの上に立って大きな三十年という歴史の節目を乗り越え、また新しい第一歩を踏み出す年であると思う。この新しい年にあたって諸君遂に次のことを要望したい。

第一は、まず強くあれということ、我々の存在意義は戦争を抑止することにある。この為には相手が手を出すのに躊躇するだけの精強さが必要であり、内にあつては国民に信頼されなければならない。



岩見沢駐屯地業務隊長
二等陸佐 大村 了

新年を迎えて

駐屯地のみなさん、明けましておめでとうございます。御家族ともども佳い正月を迎えられたことと思います。

昨年は、第十二施設群も、団長検閲及び方面總監が行なう団検閲において好評価を得、又、団の冬季戦技及び射撃の両競技会を制覇して、着実に実力をつけたほか、環境整備の面においても、全隊員による駐屯地整備の努力に合わせ、待望の新隊舎が完成したことにより一層の充実を見ました。夏前には駐屯地創立三十周年をお祝いして、草創期における先達の労苦と、爾来三十年にわたる各隊の努力に敬意を捧げましたが、反面社会におけるこの三十年間の進歩と変革はまさに驚嘆に値するものがありますし、又昨今高度成長から低成長への脱皮をめざして、死にも狂いの変革を迫られている時期でもあります。この時期に第二世代の第一歩を踏み出そうとする我々も、ここで三十年のあかを

落として過去の行きかぎりを清算し、意識の変革により脱皮した姿をもって、より意欲的に隊務に取り組んで行くことが必要だと思ひます。そういう見地からも、この五十九年度を皆で意義ある年にしたいと思ひます。

扱て施設の関連では、新年早々一号隊舎の便所洗面所の改修工事が始まり、当分の間不便をかけることとなりますが、春には新隊舎並のものが完成し、又、自習室等も付随して出来ることとなりますので御協力をお願いします。

その後一階部分には、売店設備を整備して、みなさんの便宜をはかりたいと年内実現を目指して努力中であり、期待してもらいたいと思ひます。

マラソンの瀬古、佐々木両選手や、男女バレーボールチーム活躍の、薩の努力に思いをいたし、一段の飛躍を期待します。

年男がぞく挨拶



本部中隊
佐藤 清秋

年男、早いものであつと言う間に、人生の三分の一が過ぎ去ってしまいました。

振り返ってみて、自分に何か思っている事、世の中に役立つ事をして来たかどうか。ただぼんやり日々を過ごして来たのではないうだろうか。普段は何も考えないでペンを取って、現実だけを考えていた自分が情けない様に思えますが、それでも良いと思っております。

忘れかけた事を思い出し、慣れきつた事を又、一からやりなおす。「初心に返れ」と言った方が早いかもしれないね。何をやるにしても「初心」を忘れては一大事、一月はそう言った事で心を新たにしている事に、訓練に取り組んで行く月です。私自身いつもちよろちよろして落ち着きはなく、ねずみとぞくりの様な気がしてなりません。今年はずっくり腰を落ち着け、

「前向き」の姿勢で物事に取り組んで行こうと思っております。



337施中
平尾 孝

皆様、新年明けまして、おめでとうございます。

昨年は、目まぐるしい変化の年であり、またたく間に一年がすぎたと思います。

我々第三施設団の隊員にとりましては、昨年は何と云っても、方面總監検閲、その検閲を目標に、訓練・隊務に励んで来た事と思います。今年も検閲、戦技等の各種行事が数多くあると思います。

私は、今年三回目の年男、本年は昨年も増して、より一層、訓練・戦技・服務に頑張るべく行く所存であります。

新年にあたり、訓練・戦技・服務の三点について抱負を述べたいと思います。訓練は、目標を中隊検閲における、分隊長としての指揮能力の向

上、隊員に対しては、技術的な指導を細かい所まで指導して行きたいと思えます。

戦技は、銃剣道、射撃、持続走、この三種目には、絶対に選手として参加し、中隊を優勝に導きたいと思えます。

服務は、現在、服務分隊長をしておりますので、隊員に対し、人生計画的な充実を図り、私有車両の計画的な使用と安全運転の指導、そして隊員個々の把握をしっかりとりたいと思えます。

以上三点について抱負を述べましたが、最後に、昨年読みました本のうち、織田信長についての本のうちの一節ですが「人間五十年化

転のうちには比ぶれば夢まぼろしのごとくなり、ひとたびこの世に生を享け滅せぬものあるべきか」

この一節のような気構えて年男の一年を充実した年にしたいと思えます。



336施中
林 治秋

私も今年で四回目の年男をむかえる。

年男とは、本来の意味は何んであろう。広辞林によると、一、武家で新年の諸儀式につきいを行なつた役。

二、節分に豆まきをする男となっている。一、二の意味においても年男はすべて責任重大である。今年の年男として、抱負、決意を述べて見たいと思う。

私もすでに自衛隊生活二十八年間を過ぎて、今ふり返って見ると何をして来たであらうかとつくづく反省してしまう。一つ今年はその事項について自分の出来る範囲内で頑張りたいと思う。

一、努力すること。努力といつても人に勝つとか、人より出世するためでなく、自分に与えられた仕事に対しては、一杯努力して仕事と競争をする

こと。二、「やろう」という意識をもつこと。

「英雄とは、自分のできることをした人、凡人とは、自分のできることをやらない人」

自分のできることは常に積極的に実行する。

三、最善をつくす。どんな仕事でも良いから常にその第一人者となるよう最善をつくして仕事をすれば、おのずと道がひらけてくるものです。

四、良き環境作りに努力。人間の成長にとって環境が大きな役割を果している。

自らを向上させる努力は自分のみならず周囲の人々にとって良き環境となる。

五、初心を研げ

自衛隊という組織の中の仕事は個人的な仕事はありえない。

だから当然仕事そのものは面白くないはずである。いやいや仕事をしていて何年も何十年もつづくわけがない。「仕事を面白くする」のは前向きに意欲的に取り組む姿勢からのおのずと生まれてくる。

年男として今年、いや今後の自衛隊生活の中で実行してゆくよう努力してより良き人間関係をきずいて行きたいと思う。

演歌に思う

三三五施中

板谷 孝 昭

演歌はリズムもなく詩を唱うのが大きな特徴。その主人公になりきって詩の心を唱う。しかも演歌には哀愁がある。つらかった時、苦しかった時代に流行した歌はよく覚えており、その曲を聞く度に当時を思い出し懐かしく、又せつなく心に響くものである。今年はずっくり腰を悪くして入院したが、山茶花の宿が流行っていて、テレビにラジオに、且に何度もかかっている歌であり、タバコをガマンして辞めた苦しみ、歌でもありません。今後この歌を聞く度思い出すことだろう、苦しかった思い出と健康のありがたさを。

'83をふりかえる



家族スキー教室 1月7日



駐屯地球技大会 5月19日



方面総監訓練検閲 10月31日



群冬季戦技競技会 1月22日



群持続走大会 7月4日



新隊舎落成テープカット 11月16日



団冬季戦技競技会優勝 2月3日



冬季運動会 2月21日



駐屯地運動会 9月2日

体験とう乗 11月21日

私も、初めての社会で保険という仕事をして、男性ばかりの中の数少ない女性として、初めのうちは、気分の乗らない時でもやはり、笑顔は絶やせないし、やだな、と思う時もあったけれど、今では自衛隊の車を見ると、どの部隊かな。とか、OD色の服を見ると、反射的に、御苦労様です。と言いたい。これは一種の職業病じゃないかと思う程になりました。それに何といっても、一連に五百何十人もの、それも男性と知り合いになれ、茶化されても、保険を、やめる。って苛められても、その事が自分の成長に一番の

岩見沢駐屯地の皆様、新年明けましておめでとうございます。私も早いもので昨年の四月に社会人となり、十ヶ月目に入ろうとしています。私は生まれも育ちも岩見沢で、二十年間暮らして来たけれど、自衛隊へは一度も来たことがなく、何の知識もありませんでした。でも自衛隊に来て、自衛隊の仕事の内容など良く分かり、演習の話など聞く大変な仕事だと思っております。



協栄生命
鈴木裕子

新年あけましておめでとうございます。おかげさまで、私にも二十歳の正月がやってきました。そこで私もこの年にちなんで抱負をひとつ……。とにかく、二十歳にふさわしい女性への大変身。今年の目標はこれしかありません。それはさておき、今年こそは自分自身のミスでまわりの人達への迷惑をかけないようにしよう、と決心しました。

この五十九年という年をひとつの節目と考えて、今年やってみたいこと、もっと勉強したいこと、まだまだたくさんありますので、これをひとつひとつ実行していこうと考えております。



厚生科
塩崎由花里

得た物だと思っています。今年も入社した時の初心を忘れることなく、笑顔で頑張りたいと思います。部隊の皆様も健康に気をつけて、教育や訓練に負けず、一生懸命頑張られる様お祈りいたします。

はじめての転勤



(家族)

長嶺 栄子

ひと雨ごとに気温が下がり、肌を刺す冷たい風が、雪国といわれる山形で生れ育った私をも、とかく家の中に閉じこめてしまい、北海道にいるということを痛感させてくれます。

転勤が決まった七月初旬、同じ所で生れ育ち、結婚後も、実家から歩いて二分の所に住んでいた私には、北海道は途方もなく遠い所でした。まして、一歳になったばかりの長女をか、えて、知らない土地での生活は、不安でなりませんでした。八月三日、岩見沢駅に着いた私たちを、出迎えて下さった方の笑顔がどれほど私の気持ちを安心させてくれたかわかりません。それに、下見もせず一番心配していたアパートには、家具や冷蔵庫が、動かすことのないくらい配置してあり、テレビはきちんとセットされ、着いてすぐに見れるようにとの配慮に、部隊の方々のやさしい思いやりと、心遣いが手に取るように私には感じられ、本当に感激し、感謝の気持ちでいっぱいです。

寒さも本格的になり、いよいよ厳しい冬の到来。当分は、寒さと雪の量にとまどいながらも、山形とはまた違った経験ができるという気持ちで、この冬を迎えようという話しをしてあります。そして、これからの生活から学びとる教訓や、転勤で感じた不安や動揺、なによりも、知らない土地での部隊の方

々の思いやりと、やさしい心遣いに接することができた事、近所の方の親切など、いつか子供に話してやりたいと、ひそかに思っています。住めば都とはよく言ったものです。五ヶ月を経た今では、この言葉が実感として理解できるようになっています。

昇任おめでとう

一等陸尉へ	本 中 中村友勝	田端一美
二等陸尉へ	三三七施中 川上和男	河原裕幸
准陸尉へ	本 中 葛西正浩	村上治雄
陸曹長へ	本 中 川東岩男	岩戸正志
	三三七施中 福村長作	松山亮三
	業務 隊 海野繁夫	鳥谷文男
	業務 隊 伊島正四郎	兼平浩幸
	基 通 合田実	石川正秀
一等陸曹へ	三三五施中 石井増美	横山孝雄
	三三六施中 岸良省三	佐藤克美
	三三七施中 月俣未俊	南屋裕之
	業務 隊 佐藤隆	酒田洋之
	基 通 宗基道	坪内秀孝
二等陸曹へ	本 中 青木勝	山上竜一
	岩井博美	村田正隆
	伊藤一則	大久保清
	三二二器中	大西賢章
		三三六施中 高橋一郎
		三三七施中 田部哲男
		近藤和久
		柴田周二
		弓場光晃
		田川英男
		手嶋隆生
		濱里一彦
		渡辺伸二
		小野田一則
		佐藤真己
		長谷川真己
		追川寿明
		入江俊彦
		中原義孝
		安達義孝

北海道社会 貢献賞受賞



岩見沢駐屯地

岩見沢駐屯地は、昭和五十八年十月二十七日、北海道知事から北海道社会貢献賞(献血推進功労者)を受賞した。

これは昭和三十九年十一月岩見沢市献血推進協会発足以来、岩見沢駐屯地は延べ三千三十八名、献血量、六十万七千六百ccの協力であり、この功績が認められたものです。

スキー教室のお知らせ



スキーシーズンです。貴方も、北海道で初めての冬を迎える貴方も、戸外に出て思いきり運動をしましょう。家事の合間に、勉強の息抜きに、そして健康増進のためスキーをしよう。

今年も一月十一日から十三日の三日間、駐屯地のスキー場で家族スキー教室があります。隊員の有技能者が懇切に教えてくれます。家族の方の参加を歓迎します。

編集後記

昭和五十九年一月号から広報紙「いわみざわ」を外注に依頼し、ご覧のような立派なものが出来上りました。この間における皆さんのご協力に対しお礼を申し上げます。紙面の関係で掲載できなかった方も多数あり、申し訳なく思っております。

これからもよい広報紙づくりに努力しますので、より以上のご協力をお願い申し上げます。